ところで、もう一種類のカイギュウ、ステラーカイギュウが1768年まで、北の海・ベーリング海に棲んでいました。1741年にベーリング隊長が率いる探検隊によって発見されました。ベーリングたちの船が壊れて遭難し、飢餓に苦しみ、壊血病にかかり、やっとたどりついた小さな島の海辺に、ステラーカイギュウは、人の怖さを知らずに、２千頭ほどひっそりと生きていました。そのステラーカイギュウによってベーリング隊員は飢餓と病気から救われ、ベーリングは命を落したものの、多くの乗組員は本国へ帰ることができたのです。ベーリング探検隊の命を救った「ステラーカイギュウの話」を聞いた、毛皮用ラッコ捕りの猟師たちは、早速、ステラーカイギュウを食糧として、ラッコ捕りを始めた。その狩猟からステラーカイギュウを守るため、政府に保護を訴えた、鉱山師のヤコブレフの声も無視しながら、冬でもラッコ捕りを続けた。そして、発見からわずか27年後の、1768年にステラーカイギュウは皆殺しされ、絶滅した。ステラーカイギュウは、ベーリング海に繁茂していた昆布をたくさん食べて、７ｍの大きな体になったといいます。しかし、ジュゴンやマナテイーと異なり、歯がまったくありません。体の大きさに比べ頭が小さいことも特徴です（高郷村郷土資料館には、今はなき、このステラーカイギュウの１／２サイズの標本模型を展示しています）。

このステラーカイギュウなどを含む、オオカイギュウの進化史については、アメリカ・ハワード大学の世界的なカイギュウ研究者・ドムニング博士は、化石の調査から「このステラーカイギュウの先祖は、何百万年の大昔には立派な歯があった」ことを明らかにしています。この歯があったカイギュウこそ、前に述べた太平洋を中心に生息していた、ドシシーレンであるといいます。

実は、今回発見された高郷のカイギュウ（和名：アイヅタカサトカイギュウ）は、歯の入っていた穴（歯槽）が、上あごの歯槽突起という骨に残っています。ですから、アイヅタカサトカイギュウは、ステラーカイギュウたち（オオカイギュウ）の先祖にあたる、ドシシーレンのなかまになるわけです。

そこで、アイヅタカサトカイギュウの特徴を詳しく見ることにしましょう。特に、歯のついている骨（歯槽突起）を中心に調べると、

※　歯槽が小さく、

※　歯槽の並びかたが前後方向であること、

※　歯のつく骨（歯槽突起）の幅が狭いこと、

※　歯のつく骨の形が、歯がなくなったステラーカイギュウ（オオカイギュウのなかま）などのものに似ていること（第13図）

などがわかります。つまり、歯のある他のドシシーレンのうちでも、歯がさらに退化した、新しいタイプのものであることが分かりました。そのようなアイヅタカサトカイギュウの特徴